

## 地域で楽しく生徒と創作活動！—演劇が効果的な療育！？—

神奈川県川崎市  
株式会社アイム  
ダヴィンチ放課後 武蔵小杉  
代表 佐藤典雅

### 1 はじめに

発達障害をもつ児童の大きな課題は「ソーシャル・スキル」、つまり「社会性」をもたせる訓練です。一般的には「療育」を通じてどのように SST（ソーシャル・スキル）を高めるかが議論されてきています。アイムでは放課後等デイサービスを通じて、どのようにしたら生徒のソーシャルスキルを向上させられるか常に新しいアプローチを試しています。今回はその中の一つとして生徒たちとスタッフによる「短編映像制作と演劇」の事例をご紹介します。

### 2 事例や取組みの紹介

アイムで気づいたのは「生徒たちがたくさんいるので、キャストメンバーはたくさんいる！」。だったら生徒たちと一緒に映像作品を作ったら楽しいではないか？？ そこで試験的に生徒たちを使って短い動画をつくってみました。すると Youtube で自分たちが登場する動画をみて生徒たちは盛り上がります！ というわけで今回は夏休みに大作を一本創ってみよう！ということに。

夏休みは午前から生徒たちを預かっているので撮影時間が長くとれます。そこで今回は生徒たちを主演にした作品を創ることに。そして放課後デイがある地域の色々な場所で撮影をすることにしました。ビルの大家さんをお願いして屋上やお店で撮影をさせてもらったり、近所の方をお願いしてロケ（撮影場所）を決定。その結果、地域の特徴を出した作品が創れました。

**作品は Youtube (ユーチューブ) で [怪人 23 面相](#) で検索してください！**



### 3 考察

演技をするのに照れもあったせいか、演技に集中できず不真面目だった生徒たち。すぐにふざけてみたり、ゲームを取り出してみたり、ニヤニヤしてみたり。そこでスタッフが「次笑ったら役から外すよ！」と演技指導を真剣に。すると次第に生徒たちも真剣に……。演技のための「役作り」をしながら、各キャラクターの立ち位置を考えます。すると役者としてのアイデンティティも芽生えます。

撮影を重ねるうちに顔つきがきりっとしてきて、てきぱきと演技をするように。そして日頃から簡単に諦めがちだった生徒も「ワンモアテイク！」の掛け声で、パーフェクトな場面が撮れるまで最後まで諦めずに演技を粘るように。自分たちは演技をやっているんだ！という自覚が芽生え、表情にも変化がでました。教室のスタッフにも見た目で見えるくらいの変化が起きてびっくり。



撮影の後にはご褒美に大好きなマックをご馳走。最終日にはステーキをご馳走してもらったら「これがギャラカー！」と大興奮。自分たちが仕事をしたら報酬を貰えるんだと体で覚えたようです。役作りを通じてロールプレイングを身体で学ぶ。ステーキをうれしそうに頬張る生徒たちを見て、これこそが本当に「ソーシャル・スキル」だなと実感しました。

#### 4 おわりに

作品に参加した生徒の保護者からこのような感想を頂きました！

親が言うのも何ですが部活などもしておらず根性はない方です。しかしこの撮影には根性を見せました。暑い天候の中の何日にも渡る撮影でしたが、文句も言わずに頑張りました。「教室の中で選ばれた」という責任感があったのかもしれませんが、やりきったという達成感と自信の芽生えがこの先の彼の何かに役に立ってくれるような気がしており、親として感謝しております。(池田)

息子に最高の機会をいただき有難うございました。なかなかチャンスを得る事の少ない彼にとってとても嬉しかったようで、撮影のあった日はあんな事あったこんな事あったと色々話してくれました。アップされるや否や絶対見て！！とLINEを送ってきてくれました。(三村)

普段はカメラを向けると顔を背けてしまうので、演技など無理なのではないかと思っていましたが、仕上がった作品を拝見して驚きました。表情から緊張は伺えましたが、少ないセリフでも上手に表現出来ていました。きっと、息子の違った一面を引き出して頂けたのだと感謝です！(田中)

今回一番良かったなと思っているのは本人から友達を思いやる言葉を聞けたことです。一緒に出演した友達の一人から、動画撮影を苦手に思っていることを聞いていたらしく、「〇〇くんは次の日も撮影があるけど、大丈夫かな」と心配していました。お互いに思いやれる友達関係を築けていることや本人の精神的な成長も動画撮影を通じて知ることができ、親として嬉しい出来事でした。(梅原)

普段であれば、「暑くて疲れる」、「youtubeを見たいからお手伝いはいやだ」等と中々動かすことができない息子ですが、今回の撮影では、自分が選ばれ、自分に求められた「仕事」と捉え、気持ちの切り替えも自然とできるようになり、しっかりと自分の役割を全うしようとしていました。息子も出来上がった作品を食い入るように見て、一言、「僕は頑張った！」と。満足そうな顔で。普段は自己肯定感の低い子ですが、自分で自分を認められた瞬間でした。息子にとって最良の療育です。(原)



最後におもしろいエピソードをひとつ。撮影後ステーキレストランに入った時、店内のお客さんたちから「あー！本当にやってきたぞー！」と歓声があがりました。一体何かと思ったら、ずっと窓からスタッフと生徒たちが撮影している様子を見ていて「あれはなんだろう」と話していたとのこと。最後まで地域に見守られていたのだなと思いました。逆に今度は地域へ向けて Youtube から生徒たちの成長ぶりを発信していきたいです。